

下野市立国分寺東小学校

1 学校課題

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指して
～算数科における「対話的な学び」の充実～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度まで、本校では ICT 端末を利活用した「対話的な学び」の充実を目指して研究を進めてきた。活用場面や指導方法について研修し授業に取り入れたことにより、児童の ICT 端末操作スキルは向上し、様々な学習場面で活用できるようになった。ICT 端末を「対話的な学び」を充実させるための一手段として生かせるようになったことは、研究の成果である。

しかし、全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査の結果から、自分の考えを表現する力に課題があることが分かった。具体的には、記述式問題の正答率が本校の他の問題の正答率に比べて低く、条件を満たして記述すること、算数科において式の意味や考え方を図や言葉で説明することに課題があった。これは、昨年度だけではなく、ここ数年共通する課題でもある。これらの課題を改善するには、まず既習の知識や技能を活用して自分の考えをしっかりとつこと、自分の考えを深めたり広げたりするために児童が主体的・対話的に学ぶことが必要だと考えた。

また、「対話的な学び」の充実を図ることは、国分寺中学校区小中一貫教育における実践研究テーマ『学び合いを深める 聴く、伝える、関わる力の育成』にもつながるものと考え。2年間、「聴く」ことについて各校で実践研究を進め、成果が上がっている。さらに「伝える」「関わる」ことへ深めていきたい。

そこで、今年度は算数科における「対話的な学び」を充実させることをサブテーマとして研究を進めることとした。これまでの研究を生かしながら、さらなる授業改善に努めていきたい。

(2) 研究の仮説

算数科において「対話的な学び」の工夫・改善を推進することにより、「見方・考え方」を働かせた深い学びの実現につながるものと考え。

3 研究内容

(1) 授業改善の視点

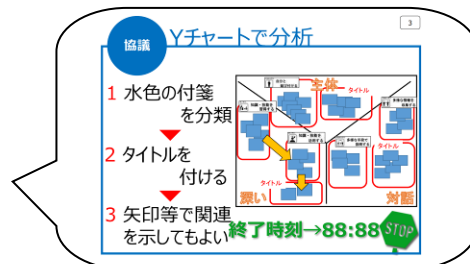
- ①「対話的な学び」が成立している児童の姿の共通理解
- ②身に付ける力が明確に分かる単元づくり
- ③「対話的な学び」を引き出す授業展開

- ア 学習の見通しをもたせたり、児童の興味・関心を引き出したりする導入
- イ 根拠を基に算数的用語、図、式を用いて、説明したくなる問題設定
- ウ 既習の知識や技能を活用して自分の考えを書く活動
- エ 正確に伝えるための手立て（「授業で使いたい言葉」の活用）

- ④学力向上推進リーダーとの連携による授業改善

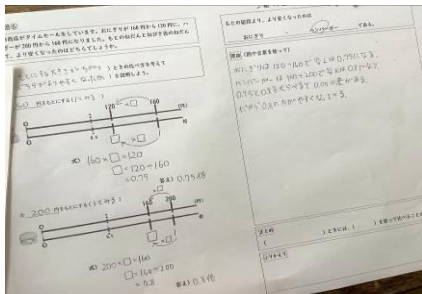
(2) 指導方法の工夫

- ①学習課題、めあての提示、板書の工夫、教室環境づくり
- ②発達段階に応じたノート指導（教科書に掲載されている形式を基準に統一）
- ③ICT の効果的な利活用
- ④基礎基本の定着（ドリル・テストの活用）



(3) S&U コラボ事業を通した主題への取組

①授業研究会

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等	
6月26日	5年	「小数の倍」	・既習事項を基にして、自分の考えを表すためのワークシートの工夫  ◎式、言葉、数直線など、何を使って自分の考えを表すか選べるようにした。また、提示されたどちらの品物が安くなったと言えるのか、丸を付けて立場をはっきりさせることができた。	・自分の考えを友達と比較し、正しい答えを導き出すための話し合い  ◎より安くなった品物はどちらなのか、「もとにする数」に対して計算して求めた0.75と0.8は何を表す数であるか、式、言葉、数直線が表しているものを考えながら、説明し合うことができた。
11月27日	3年	「小数数の表し方やしぐみを調べよう」	・小数の仕組みを調べる必然性を持たせる導入の工夫  ◎小数をいろいろな表し方で説明するカードを作成し、神経衰弱ゲームをすると児童に伝えた。既習の内容を振り返りながら、一つの表し方で満足することなく、他にどのような表し方ができるか、自分のワークシートに集中して取り組む姿が見られた。	・自分の考えを算数的用語、図、式を用いて、説明する活動  ◎友達の説明を繰り返したり言い換えたりしながら聞くことで、図や式が同じでも説明の仕方が違うことに気付いたり、説明するうちに自分の間違いに気付いたりするなど、対話により学びを深めることができた。

②講話

月日	講師	講話内容
7月25日	宇都宮大学 日野圭子先生	数学的な見方・考え方、理解を深める対話プロセス、思考を活性化させる手立て等について

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①サブテーマ「算数科における『対話的な学び』の充実」の下、組織的に研究に取り組んだことにより、「対話的な学び」が成立している児童の姿について共通理解することができた。
- ②導入の工夫、話し合う必然性のある問題、既習事項を生かせるワークシートなど、二度の授業研究や大学教授の講話受講などの研修により、「対話的な学び」を引き出すための有効な手立てが分かった。

(2) 研究の課題

「対話的な学び」がどの児童にも成立しているか検証し、対話の質の向上をさらに図る必要がある。